

## 合格体験記 16

### 東京学芸大学 A 類音楽専修 進学

他の主な合格校： 国立音楽大学 演奏・創作学科鍵盤楽器専攻

#### 1 志望校決定について

もともと学校の先生になろうかと考えていたこともあって、学芸大学は高校 1 年生のときから意識していました。はっきりと決めたのは 3 年の授業選択をしなければならなくなったときで、得意なことを活かしたくて音楽専修を選びました。

#### 2 学習計画について

##### (1) 1、2 年次の学習について

1, 2 年生のときは部活との両立が難しくテスト前の 1 週間で何とかしていました。小テストの勉強だけは通学の時間をあててしていました。

##### (2) 2 年 3 月から受験本番までの具体的な学習法

授業に関しては、3 年の 1 学期は先生の解説について行くので必死で、授業中に理解できなかった部分はもう一度自分で調べて自分なりに理解するようにしていました。

夏休みのあとは実践が多くなり、自分ができた部分は解説と同じように考えられたか確認し、間違えた部分は解説を書き加えてマークして同じ形の違う問題で間違えないように気をつけるように意識していました。

私は受験する大学的にセンター試験しか教科の試験がなかったので、センター対策しか必要ありませんでした。ですから、1 学期と夏休みはひたすら基礎を固める、2 学期からセンター試験の過去問を混ぜながら問題集を繰り返し解く、冬休みはセンターの過去問を中心に、暗記物は何度も見て覚えるという計画でやっていました。

私は性格的に完璧に計画を守るタイプではなかったので、1 週間でこの問題集が何ページ進んだらいいかなとか、英語の長文は絶対 1 日 1 個は触るとかざっくりしたものしか立てていませんでした。

正直、体育祭が終わるくらいまで受験にモチベーションが上がらず、「やらなかったらみんなに置いてかれる」という危機感だけでやっていましたが、受験の日程が確認できた辺りから本当に大学受験するという実感が湧いてきて自然と受験に向かった感じでした。

ストレスが溜まったまま勉強するのは効率が悪いと思い、動画を見たい時はみていたし、無理やりスマホを触らないとかもしていません。やる気が起きない時は専攻にするピアノを弾いたり歌を歌ったりして科目ではない受験勉強をしていました。

家で勉強するのは気が散って向いていなかったので、長期休暇は学校の自習室でやっていました。

(3) 利用した参考書・問題種、その利用法

基本的には学校で配られた問題集、参考書を使っていました。夏休み中に英語の長文は毎日やりましたので、それはZ会の Rise2 と河合塾のやっておきたい英語長文 500 を使いました。苦手な数学は1ヶ月で出来る緑チャートを2周やりました。

(4) 模試の活用方法

模試の結果にある分野ごとのバランスみたいなやつをみて、苦手だった部分を次までに直して、次の模試で同じ分野が出た時は自信を持ってできるようにすることを繰り返していました。

(5) 予備校の活用方法

ピアノも歌もあったので使いませんでした。私はセンター対策しかなかったので、学校の授業を中心に過去問と問題集を上手く混ぜて勉強しました。

(6) 部活動・行事・委員会活動・趣味などとの学習の両立

1年と2年は完全に部活と習っていたピアノが生活の9割を占めていてほとんど勉強はできませんでした。小テストだけはどうしてもないくらい疲れているとき以外はできるだけちゃんとやるようにしていたくらいです。

(7) 後輩へのアドバイス

高校生活は思いっきりやりたいことを楽しんでいいと思います。確かに小テストはほぼ毎日のようにあるし課題もあるから、時間が足りなくて大変だけど、必死にやったことは勉強でなくても力になります。

ただ、テストや授業で明らかに苦手だなって思ったことは放置しないで、3年の夏休みまでにはそれなりのレベルにしておくとな後がすごく楽になります。

(8) 高校生活全般についての感想・意見・反省

ムサキタは目標に向かって真っ直ぐ頑張れる人が多くて、自分には足りない要素でたくさん刺激されて勉強も部活も行事もできた気がします。この3年間はひたすら時間に追われる毎日でしたがこんなに充実して必死になれた時間は今までにない時間で、精一杯走ってよかったなと卒業した今は思えます。

(9) 合格した時の喜び

合格したときは本当にほっとしました。10年以上ピアノに通わせてくれた両親に少しは恩返しできたかなと思います。自分の好きなことを活かして受験するのは自分にとっては不安な気持ちの方が大きくて一大決心でしたが、合格してこの道にしてよかったなと思います。